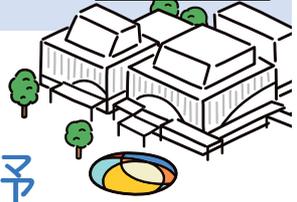




⑤文化・スポーツ 分野



2030年の
目指す姿

歴史に育まれてきた多彩なしずおか文化に
誇りと愛着を持ち、スポーツ・学びを通して一人ひとりが
輝き続けるまちを実現します

文化活動やスポーツ、生涯学習は、人々の心を豊かに、体を健やかにします。また、活動の中で出会った仲間との交流は、新たな活動や交流を創造し、地域に活気をもたらし、まちづくりに活かされる大きな原動力となります。

本市では、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に築いたホストタウン相手国・地域等との交流のほか、ホームタウンチームとの連携により、スポーツへの関心が高まっています。また、世界レベルの文化事業の実施などにより、市民が日常的に文化に触れる機会が増加するとともに、歴史博物館の開館により、静岡特有の歴史を身近に感じられる環境が整っています。さらに、生涯学

習を行う市民の増加に伴い、リカレント教育^(※1)やリスキリング^(※2)等、学び直しの機会の充実が求められています。

こうした現状を踏まえ、スポーツを通じた交流の促進や、市民一人ひとりがスポーツを「する・みる・ささえる」ことができる機会の創出、価値ある本市の歴史を守り伝え、今を生きる人々の活動等を通じた新たな文化の創造、学習機会の充実や学びの場の環境整備、学びの成果を地域で活かすための支援などに取り組む必要があります。

そこで、歴史に育まれてきた多彩な文化に誇りと愛着を持ち、スポーツ・学びを通して市民一人ひとりが輝けるまちの実現を目指します。

分野を代表する指標

スポーツが盛んな
まちだと思う市民の割合

R4 現状値: 63.1%

R8 目標 65.3%

R12 目標 70.0%

※静岡市市民意識調査

歴史・伝統文化や地域の魅力が
感じられるまちだと思う市民の割合

R3 現状値: 58.9%

R8 目標 66.0%

R12 目標 70.0%

※所管課によるアンケート調査

生涯学習を行っている
市民の割合

R3 現状値: 53.7%

R8 目標 62.0%

R12 目標 70.0%

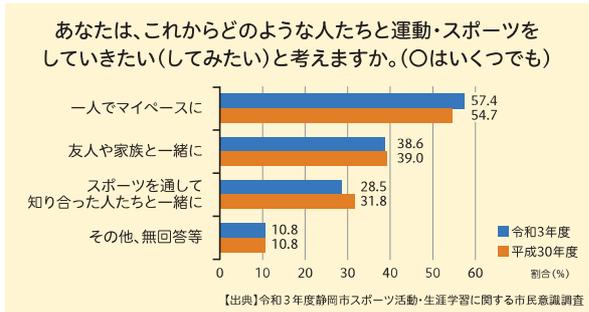
※所管課によるアンケート調査

(※1)リカレント教育：社会人になった後も、教育機関で学びなおすことや社会人向け講座を受講することで、生涯を通じて学び続けていくこと
(※2)リスキリング：スキルや技術、知識の再取得。職業で必要とされるスキルの大幅な変化に対応するために、必要なスキルを獲得する(させる)こと

現状と課題

誰もが文化やスポーツに親しむための機会や交流によるにぎわいの創出、学んだことを活かすための支援が求められています

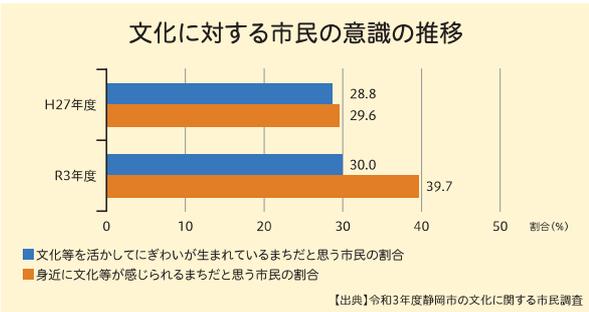
多種多様化する需要に応じたスポーツに親しむための機会の創出や環境整備



近年、市民がスポーツに求めるものは、価値観やライフスタイルの変化から多種多様化しています。また、時間・場所を選ばず自分のペースのできるスポーツの需要が高まっています。このような需要の変化に応じ、誰もがスポーツに日常的に親しむための機会を創り出すことと、環境の整備が求められています。

さらに、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等における合宿誘致及び交流事業等の実施や、ホームタウンチームとの連携により、スポーツに対する市民の関心が高まりました。そこで、これまで培った交流等を一過性のものとせず、継続的な取組にしていく必要があります。また、ホームタウンチーム特有の強みを活かした更なる取組の推進が求められています。

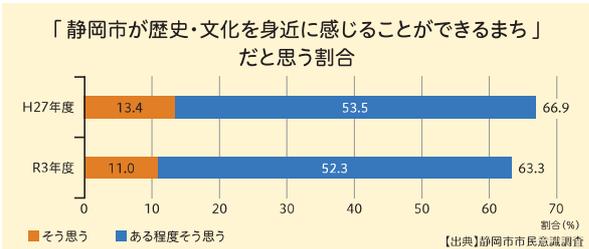
文化等を活かして賑わいが生まれるまちだと思う割合の伸び悩み



まちなかや文化施設では、文化事業が盛んに企画・開催され、子どもから大人まで文化に触れる機会が創出されたことで、「静岡市が幅広い世代が文化に触れる機会が増え、文化を身近に感じられるまち」と考えている市民の割合が上昇しています。

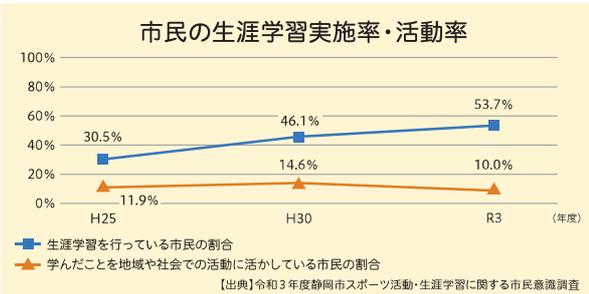
一方で、こうした文化を活かして賑わいが生まれるまちだと思う市民の割合は高まっておらず、気軽に文化事業に参加できる機会の提供と情報の発信、文化を通じた交流の活性化が求められています。また、文化施設の中には開館後数十年が経過している施設もあることから、老朽化に伴う再整備の他、文化活動を通じた居場所づくりや誰もが心豊かな生活を営むことができるような環境整備が求められています。

歴史への関心の低さと伝統文化の担い手の不足



静岡市歴史博物館や駿府城跡天守台野外展示といった歴史文化の魅力発信の拠点整備が進んでいる他、久能山東照宮や静岡浅間神社などの有形文化財の保存修理の支援を推進してきましたが、「静岡市が歴史・文化を身近に感じることができるまち」だと思う市民の割合が減少しており、歴史に対する市民の関心が高まっていません。また、人口減少・高齢化・過疎化による後継者不足が進み、無形民俗文化財をはじめとした地域の歴史文化や伝統の維持存続は喫緊の課題となっています。歴史文化の国内外への魅力発信によりシビックプライド(※3)を醸成するとともに、保存・継承及び活用の推進を通じた地域の歴史文化の魅力向上が求められています。

社会変化に対応するための学びと学んだことを地域や社会に活かす市民の支援



生涯学習を行っている市民の割合は増加していますが、学んだことを地域や社会に活かしている市民の割合や生涯学習施設の利用者数は減少しています。誰もが気軽に学びやすい環境の整備と、学んだ成果を活かすための支援が求められています。

また、人生100年時代の到来やDXの進展などの社会経済環境の変化に対応するリカレント教育やリスキリングといった社会人の学び直しの支援も必要となっています。

(※3)シビックプライド：都市に対する市民の誇り。「このまちをより良い場所にするために自分自身が関わっている」という当事者意識を伴う自負心のこと

政策と施策体系図

政策
01

スポーツの力で誰もが健康で
心が満たされるまちづくりを推進します



施策1

誰もが楽しむことができる
スポーツの推進

- 各種スポーツ教室の開催
- 地域や他分野との連携によるスポーツ活動の推進

施策2

スポーツに日常的に
親しむための環境整備

- スポーツ施設等の整備
- スポーツ指導者やスポーツボランティア等への支援

施策3

スポーツを通じた人々の
交流による地域の活性化

- 全国大会等の開催支援や合宿誘致
- ホームタウンチームとの連携・協働

政策
02

文化を通じてつながる、
賑わいあふれるまちづくりを推進します



施策1

互いを受け入れ
誰もが文化に触れられる
機会の創造

- こども園訪問コンサートや親子コンサート
- 障がい者施設や適応指導教室等に向けたアウトリーチ事業
- ラウドヒル計画事業（市民によるオリジナル舞台作品制作事業）

施策2

市民が文化を通じて
生きる喜びを感じられる
環境づくりの推進

- 文化施設等の整備
- 文化施設でのボランティア活動
- まち劇スポット事業

施策3

国内外への情報発信の充実や
交流による新たな文化の
創造を通じたまちの賑わい創出

- 諸外国・都市との文化交流事業
- 朝鮮通信使交流
- 囲碁・将棋大会開催事業